

スナヤツメ類 *Lethenteron* spp.

【選定理由】

愛知県内における生息地は著しく減少しており、個々の生息地は分断されて局所的である。いずれの個体群も、開発による生息地の消失・改変のリスクにさらされており、絶滅の危険性が極めて高い。

【形態】

体長 20cm。口は顎を持たない吸盤状で、鼻孔は一つのみ。胸鰭、腹鰭は無く、体は細長い円筒形をしている。目の後方に点状の鰓孔が 7 対ある。成魚の体色は背面が灰褐色で腹部が白色。幼生期は成魚と形態が異なるためにアンモニーテス幼生と呼ばれ、目が無く、口がじょうご状で上唇が頭巾状に突出し、体色は暗褐色をしている。遺伝的に異なる北方種と南方種が知られており、形態的に区別できないとされているが、北方種は虹彩に黒色素が沈着して黒ずんでおり、南方種は虹彩のグアニンが目立つ傾向にある。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊川、矢作川、庄内川、五条川。

【国内の分布】

北海道から九州北部。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国。

【生息地の環境／生態的特性】

湧水の流れ込む泥底の小河川や、伏流水の多い河川砂泥底に生息する。幼生期は川底の泥もしくは砂泥中で数年間過ごし、夏の終わりから秋に変態して成魚になる。成魚は翌春に産卵して死亡する。岐阜県では平野部の湧水河川に北方種が生息し、河川上・中流域に南方種が分布する（向井ほか、2011）。

【現在の生息状況／減少の要因】

五条川、矢作川、豊川の各水系では南方種しか確認されておらず、生息地や個体数は少ない。河川改修によるコンクリート護岸化や底質の変化、伏流水の減少、生活排水による水質悪化などの複合的要因によって減少していると考えられる。スナヤツメ北方種の可能性が残る庄内川水系の生息地では、近年の生息が確認されていない。

【保全上の留意点】

小河川の場合、三面コンクリート護岸化による生息地全体の改変は避ける。生活排水等の流入による水質と底質の悪化を避ける。飼育下での系統保存技術は確立されておらず、現在の生息地の保全が重要である。

【特記事項】

スナヤツメ北方種と南方種は、同所的生息地でも交雑することのない別種である（Yamazaki and Goto, 1996）。愛知県内では南方種しか確認されていないため、スナヤツメ南方種としてレッドリストに掲載することも検討されたが、庄内川水系の湧水河川の個体群が種不明のため、両種を含めたスナヤツメ類として評価した。

【引用文献】

- 向井貴彦・池谷幸樹・大仲知樹・古屋康則・高木雅紀・塚原幸治・寺町茂・吉村卓也, 2011. 岐阜県におけるスナヤツメ北方種と南方種の分布. 日本生物地理学会会報, 66: 203-209.
- Yamazaki, Y., and Goto, A., 1996. Genetic differentiation of *Lethenteron reissneri* populations, with referenece to the existence of discrete taxonomic entities. *Ichthyol. Res.*, 43: 283-299.

【関連文献】

岩田明久, 2001. スナヤツメ. 川那部浩哉・水野信彦・細谷和海（編）, 山溪カラー名鑑 日本の淡水魚 改訂版, pp.38-40. 山と溪谷社, 東京.

（向井貴彦）